

平和記念だより 91

2024年4月

◆編集・発行/高松市市民局人権・男女共同参画推進課 高松市平和記念館
◆連絡先/〒760-0068 高松市松島町一丁目15番1号 たかまつミライエ5階
TEL(087)833-2211 FAX(087)833-2244

小・中学生のための平和講演会

「小・中学生のための平和講演会」は、次世代を担う小学生や中学生に平和の尊さを理解してもらうための事業として令和元年度にスタートしました。戦争の実相を伝えるために、講師の方がそれぞれの経験したことや、実際に起こった出来事について子どもたちに語ります。令和5年度は高松市立檀紙小学校、高松市立川添小学校の2校で開催しました。

高松市立檀紙小学校

- 開催日：令和5年10月17日(火)
- 内容：高松空襲について
- 講師：浄土卓也さん
- 対象：檀紙小学校6年生(102名)



浄土さんは、高松空襲の説明を通して、多くの民間人が犠牲になる戦争は許されない、と強く訴えました。実話に基づいた紙芝居「30年目のぼくの遺骨」では、児童が朗読に参加することで、戦争の悲惨さをより深く実感しました。

講演後、児童からは「学んだことを家族に伝え、一緒に平和について考えたい」といった声が聞かれました。

高松市立川添小学校

- 開催日：令和5年12月1日(金)
- 内容：高松空襲の体験について
- 講師：池田 ^{みほる} 實さん
- 対象：川添小学校6年生(96名)



水田に飛び込み、布団をかぶって襲い掛かる炎から逃れた高松空襲の体験談が真に迫ります。その後の一家の避難先での生活が、いかに苦難に満ちたものであったかもよくわかりました。

講演後に「未来のために自分たちの行動や発言に責任を持ちたい」「学んだことを次の時代につなげていきたい」等の感想が寄せられました。

7月3日の昼頃、「今晚は米軍が爆撃にくる。」とうわさが流れた。私は、母や妹、弟を母の実家がある松島町へ避難させるため送っていく途中、今橋で警防団員に「男は郊外に出てはいけない。」と追い返され、自宅に戻った。空襲警報が発令され空襲が始まった。父は警防団として家に残り、私は奉安殿を守るために工芸学校に向かったが、御真影は上級生が避難させるので私は逃げるよう言われた。西へ西へと人の流れに混じって郷東川橋へと向かった。逃げる途中、女の人や赤ん坊など、たくさんの死骸を見た。郷東川の橋の下にたどり着いた頃、空が白んできた。

証言者プロフィール

■ 当時 工芸学校2年生

航空機科

■ 住所 東瓦町

■ 家族 6人

父母、子ども4人

■ 家業 紙箱製造

「あの日わたしは 高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集



平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

4月の上映 「おこりじぞう」(28分)

日時▶ 開館日の土・日・祝日、午後1時～

解説▶ 昭和20年広島、ひろちゃんは「わらいじぞう」とよばれるお地蔵さんが大好きだった。8月6日、朝8時15分、光や音とともにものすごい大爆発が起こった。大やけどをおったひろちゃんが水を欲しがったその時、怒った顔にかわったお地蔵さんの目から涙がこぼれ落ちた。



5月の上映 「焼跡の、お菓子の木 (野坂昭如戦争童話集)」(45分)

日時▶ 開館日の土・日・祝日、午後1時～

解説▶ 太一が友人の春男からもらった1冊の本には、「パンの木」が1本あればお腹いっぱい食べて暮らしていけると書かれていた。空襲がますますひどくなる中、もしかしたら「お菓子の木」だってあるんじゃないかと夢見る太一たち。野坂昭如さん原作の戦争アニメーション。



6月の上映 「いわたくんちのおばあちゃん」(20分)

日時▶ 開館日の土・日、午後1時～ ※6月23日(日)まで

解説▶ 寛太の友達、岩田くんのおばあちゃんには、同じ写真に写った自分以外の家族が、広島原爆で命を落としたという経験がある。おばあちゃんのつらい思いを知った寛太は、原爆や戦争のことを自分のことのようにとらえ、平和を願う気持ちを強くする。実話をもとにした短編アニメーション。



※ 都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

▼令和6年度行事予定▲

5月

● 平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

期 日 令和6年5月11日(土)
場 所 たかまつミライエ1階 多目的室
内 容 講演「高松空襲での戦争体験」
映画「8時15分 ヒロシマ 父から娘へ」

6,7月

● 高松空襲展

期 日 令和6年6月28日(金)～7月7日(日)
場 所 たかまつミライエ5階 平和記念館
内 容 高松空襲の被災写真・絵画・資料パネルを展示

7月

● 高松市戦争遺品展

期 日 令和6年7月12日(金)～7月18日(木)
場 所 瓦町 FLAG2階 コンコース
内 容 高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料を展示

● 教職員のための平和教育講演会

期 日 令和6年7月31日(水)
場 所 たかまつミライエ 会場については未定
内 容 講演(内容未定)と「平和学習」の説明

8月

● 原爆パネル展

期 日 令和6年8月4日(日)～8月10日(土)
場 所 瓦町 FLAG8階 IKŌDE 瓦町展示コーナー
内 容 原爆関連資料を展示

10月

● 高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

期 日 令和6年10月4日(金)～10月5日(土)
場 所 上天神文化センター
内 容 市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

※ 都合により、開催を中止・延期することがあります。



寄贈者の父親の遺品。父親は 1906(明治39)年生まれ。1928(昭和3)年、陸軍入隊の際に姉から贈られた千人針の白布。大きさは、縦 18 センチ、横 201 センチで、腹に巻けるよう両端が紐の形状になっている。縦 20 列、横 40 列の赤い糸の玉が整然と縫い付けられ、中央には交差する日の丸が 200 個の糸玉で描かれていて合計千個。白布の隅には、父親の氏名と「武運長久」の文字、そして姉の名前が赤い文字で記されている。

父親は、1942(昭和17)年、満州へ出征。1945(昭和20)年、終戦直前に国土防衛のため帰国し、善通寺に駐屯した。



平和記念館「企画展示コーナー」に展示中



千人針

【読み】せんになんばり

【分類】戦時中の風習

兵士として出兵する男性の武運長久、安泰を祈願して、千人の女性が白布に一針ずつ赤い玉を作って縫ったもの。母親や姉、妹、妻、恋人など、兵士の身内の女性が、近所や町内で大勢の女性に声をかけて作り上げた。「虎は千里を走り千里を帰る」という言い伝えから、寅年生まれの女性はありがたがられた。また、死線(しせん)や苦戦(くせん)を越えるとの縁起かつぎから、五銭硬貨や十銭硬貨が縫い付けられることもあった。身につければ、敵弾が当たらないといわれ、兵士はこれを腹に巻いて戦場に赴いた。

参考：「資料が語る戦時下の暮らし」

羽島知之 編著 麻布プロデュース

「日本軍隊用語集」

寺田近雄 著 立風書房

編集メモ

突然新型コロナウイルスが出現し、瞬く間に世界を席卷したのは令和2年、春のことです。あれから4年、すべてが終結したわけではありませんが、私たちの生活は平静を取り戻しつつあります。高松市平和記念館も令和5年度は、平和啓発事業や平和映画上映会、平和学習などの行事を予定通り実施することができました。令和6年度も、平和啓発のための行事を予定しています。皆様のご来場をお待ちしています。



たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ 5階）

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29～1/3

入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます） ▲QRコード

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>

